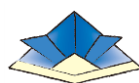


図書便い

練馬区立石神井西中学校

平成 27 年 5 月

vol.2



新緑が眩しい季節になり、図書室にも爽やかな風が吹き抜けています。
図書委員会の活動も始まって、昼休み、放課後の貸出しができるようになりました。
気持ちのいい季節に、読書を楽しんでみませんか。

〈5月の図書カレンダー〉

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7 ★	8	9
10	11	12★	13	14	15★	16
17	18	19★	20	21★ <small>図書委員会</small>	22	23
24 31	25	26★	27	28	29★	30

☺ 月～金曜日のお昼休みは、開室、貸出しをしています。

★印がついている日は、管理員が在室、放課後貸出しをしています。

※閉室の場合の返却は、廊下の返却ボックスに入れてください。

☆☆☆ お知らせ ☆☆☆

① 展示コーナーができました

カウンターの奥、準備室入口のところに展示コーナーを作りました。

今月は、〈本屋大賞 2014〉の本と、おすすめコメントを展示しました。（一部図書室にない本もあります）また、廊下の掲示板には〈本屋大賞 2015〉のランキングを掲示しました。こちらはまだ 1 位の本しかないので、今後購入予定です。

〈本屋大賞〉に選ばれた本は、読みやすくて面白い本が多いと思います。是非見に来てください！（本屋大賞 2014 の本については、別紙をご覧ください。）

② リクエストボックスを設置しました。

図書室受付カウンターにリクエストボックスを常時設置してあります。本を購入する際の参考にします。（リクエストがあっても、マンガなど一部の本は買えない場合もあります）

欲しい本をリクエストカードに書いて、入れてください。

今月の言葉

～このコーナーでは、本の中の素敵な言葉を紹介します～

『いなくなっても一生忘れない友達が一人いればいい』



これは、「きみの友達」(重松 清 著)の中の主人公 “恵美”の言葉です。

作品案内

小学校 4 年生の時に交通事故にあった恵美は、杖を使わなければ歩けなくなってしまいました。いじめにあっていたのですが、大切な友達 “友美”に出会うことができました。

衝突や傷みや喪失を乗り越えて作っていく「友達という関係」を描いた作品で、「友達」とはなんなのかを考えさせられます。友達関係で悩んでいるとき、恵美たちがヒントをくれるかもしれませんね・・・

お薦め本の紹介

今月は、心あたたまり元気になる本です

「明日のマーチ」 石田 衣良 著

鶴岡（山形県）の工場で働いていた 4 人の青年が、7 月末に突然派遣切りにあってしまふ。お金はないけれど、時間と若さだけはあふ 4 人は、鶴岡から東京までの 400km を超える道のりを徒歩の旅に踏み出した！

つらくて苦しい時もあるけど、笑いあり、涙あり、とうとう歩き通すことができた 4 人の未来には何が待っているのか…

迷いなんて吹き飛ばせ！未来はきっと変えられる！



「神去なあなあ日常」 三浦 しをん 著

高校卒業後は進路も決めずフリーターになろうと思っていた主人公 “平野勇氣”は、高校の卒業式後に、就職先が決められていたことを知る。就職先は「中村林業株式会社」という所で、神去村で20日間ほど研修を受けた後、就職することになっていた。

親元を離れ、個性豊かな3人が住んでいる家に居候する。一緒に林業をする人は、30代、50代、70代と様々な人がいる。山奥なので携帯は圏外で、遊ぶところもない。そんな厳しい状況の中でも、次第に林業に惹かれていく勇氣。

時に厳しく、時に優しい日常を描いた心あたたまる作品です。

*「WOOD JOB」という題名で映画化されています。

*続編「神去なあなあ夜話」も出版されています。

